

1 . 平成 18 年度事業報告書

事業の状況

1、写真に関する芸術・創作活動の奨励、人材の育成(決算 2,641,015 円)

(1) 写真教育

- 1)小学生を対象とした「写真学習プログラム」を4月～平成19年3月にかけて実施。
全国の小学校53校参加児童数3,074名で実施(05.1～3月12校415名、05.4～06.3月57校1,954名であった。2年間の合計122校5,443名)。富士フイルムイメージング(株)の協力で行った。
- 2)高校写真部顧問を対象とした「写真文化活動支援事業検討会」を12月9日開催した。出席者高校写真部顧問10名並びに全国高等学校文化連盟写真専門部会長、関係者13名。

(2) 技術研究会

- 1)「写真家のためのデジタル技術研究」として「モノクロ・インクジェットプリントの可能性を探る」を9月11日にJCII会議室で行う。参加者140名。講師：市川泰憲(『写真工業』編集長)
- 2)「退色ポジフィルムの復元技術研究会」を10月16日にJCII会議室で行う。
参加者45名。講師：杉本秀樹(フォトグラファーズ・ラボラトリー)
- 3)「写真家のためのPhotoshop活用術と新製品Lightroomの紹介」を2月7日、サンシャインシティ文化会館7階で行う。参加者115名。講師：栃谷宗央(アドビシステムズ)

2、写真の歴史、表現に関する展覧会の開催(決算 20,867,509 円)

(1) 「2006JPS展」後援：文化庁

- 一般公募1,532名、応募点数5,431枚、入賞入選者数230名423枚、
会員テーマ「私のこの一枚・モノクローム」出品者数148名148枚、
「ヤングアイ」参加校20校。総展示数398名591枚、総入場者数12,746名。
- ・東京展 5月21日(日)～30日(火) 東京都美術館、入場者数5,281名。
表彰式・祝賀会 5月21日(日)上野精養軒
イベント・フォトクリニック：22日～29日展示会場内、参加者43名。
作品講評・指導 松本徳彦、熊切圭介、竹内敏信、齋藤康一、東京展実行委員。
 - ・札幌展 6月8日(木)～16日(金)北海道立近代美術館、入場者数3,141名。
イベント・フォトクリニック：8日～16日展示会場内、参加者28名。
作品講評：指導 伊丸岡秀蔵、林拳示郎、綿引幸造、関口哲也、佐藤憲悦、五島健太郎、
酒井広司、佐々木郁夫。
後援/文化庁、北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会
 - ・関西展 6月27日(火)～7月2日(日)京都市美術館、入場者数2,977名。
イベント・表彰式・講演会・祝賀会：7月2日(日)京都市国際交流会館。
ビジュアルパフォーマンス：入賞作品講評：竹内敏信、西岡伸太、田中祥介。
講演会：「幸せ大国ブータン」講師・菅洋志、参加者約230名
後援/文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会
 - ・名古屋展 7月25日(火)～30日(日)愛知県美術館、入場者数1,347名。
講演会：7月29日(土)「写真表現について語る」講師・細江英公
トークショー：中部地区会員8名、参加者約240名
イベント・フォトウォーキング：7月29日(土)中区大須商店街周辺、参加者62名。
後援/文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋、名古屋市教育委員会

(2) 「2006 新入会員展 - 私の仕事」

7月11日(火)～17日(月) JCII クラブ25 出展者61名、展示作品数122枚。
オープニングパーティー：7月10日(月)、参加者125名。

3、写真に関する著作権の啓蒙・普及活動(決算1,260,949円)

(1) 研究会

- 1) 「肖像権と表現の自由 写真家は歴史の証言者たりうるか？」を10月1日、クレオ大阪西で行う。参加者232名。講師：桑田潔(毎日新聞社) 榎並悦子(写真家) 北村行夫(顧問弁護士) 司会：松本徳彦
- 2) 「RAWデータを渡すと著作権が危ない！」を11月29日にJCII 会議室で行う。参加者63名。講師：根本タケシ(写真家) 吉村克己(ルポライター) 北村行夫(顧問弁護士)
- 3) 「ドイツを中心としたEU諸国の著作権事情」を2月19日にJCII 会議室で行う。参加者51名。講師：君嶋祐子(慶応大学法学部助教授) 木之下晃(会員) 北村行夫(顧問弁護士)
- 4) 「フォトコンテストの応募要項と著作権」について調査をした。
- 5) 「保護期間の満了した写真著作権の復活」について他団体と協議した。
- 6) 「デジタルカメラのExif に著作者情報の掲載」について調査をした。

(2) 著作権よろず相談室を毎月第3水曜日に開催した。相談数14件。

4、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰(決算3,385,361円)

- (1) 第32回「日本写真家協会賞」を財団法人東京都歴史文化財団東京都写真美術館に贈呈した。贈呈式を12月13日(水)にアルカディア市ヶ谷で行った。
- (2) 「2006JPS展」入賞・入選者230名を5月21日(土) 上野精養軒で表彰した。
- (3) 第2回「名取洋之助写真賞」は名取賞に江原一禎、奨励賞に王晟陽を選び、授賞式を12月13日(水)にアルカディア市ヶ谷で行った。
- (4) 第2回「名取洋之助写真賞受賞作品展」を東京、大阪で開催した。
平成19年1月19日(金)～25日(木) 東京・富士フォトサロン、入場者4,233名。
平成19年2月16日(金)～22日(木) 大阪・富士フォトサロン、入場者3,144名。

5、写真に関する図書、機関誌等の編集刊行(決算22,371,109円)

- (1) 『日本写真家協会会報』を発行。年3回(No.132～134)。
- (2) 『別冊日本写真家協会会報総目録』を発行。
- (3) 『JPS ニュース』の発行。年11回(No.430～440、総会資料・報告)
- (4) 『2006JPS展作品集』を発行。(5月)
- (5) 『会員名簿2006～2007』増補版を発行。(7月)

6、写真に関する国際交流(決算197,290円)

(1) 国際交流セミナー、研究会の開催

- 1) 「なまはげを世界に探す」を12月6日にJCII 会議室で行う、参加者31名。
講師：芳賀日出男(名誉会員)
- 2) 砂漠を撮るドイツ人写真家マイケル・マーティン氏が9月22日、JPS を表敬訪問され交流した。
- 3) レクチャー&交流会「カンボジアン・ナイト」を3月29日、カンボジア王国大使館で行う。
参加者51名。協力/カンボジア王国観光省。

7、その他目的を達成するために必要な事業(決算4,703,350円)

- (1) 「日本写真保存センター」の設立に向けての運動を展開する。

「日本写真保存センター設立推進連盟」会議を3月19日、赤坂プリンスホテルで開催し、文化庁の調査研究費の予算化と経過報告を行い、今後の活動方針を決めた。活動報告3号、小冊子『日本写真保存センター』3号を制作した。

- (2) ホームページ、インターネットを利用したサービス業務実施。(情報サービス委員会)
- (3) ネガカバー、ファイルなど写真整理用品の製作及び販売。
- (4) 国際交流基金委託事業「日本の子ども60年」海外巡回展を、ウクライナ(06.9-10月)、スーダン(11-12月)、レバノン(07.1-2月)で実施した。5年間で30カ国を予定。
- (5) 相互祝賀会を12月13日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。参加者285名。

8、その他目的を達成するために必要な経費(決算19,572,081円)